

平成28年度 世界自然遺産に関する取組発表会 概要報告（母島）

日 時：平成28年4月19日（火）午後7時～9時
会 場：母島村民会館体育室
参加者：33名（母島村民19名、事務局関係者8名、
行政関係者6名）



取組発表会の開催風景

今回の取組発表会では、「世界自然遺産に関する取組発表」、「世界自然遺産に関する村民意向調査の全体結果」、「今後の予定」をはじめ、村民の皆さまに広くご意見をうかがいました。

これらの意見を、テーマごとに以下にまとめました。

今後は、いただいたご意見をふまえ、小笠原で暮らす皆さまの生活や産業にも十分配慮しながら、小笠原の世界自然遺産の価値である自然環境を守る取組を、村民の皆さまにご協力いただきながら進めてまいります。

1. 世界自然遺産に関する取組発表（●：村民の意見 ○：行政機関の意見） ＜森林生態系保護地域について＞

- 森林生態系保護地域に入るための講習はどうやって受ければよいのか。
- 村民日よりで、講習を行う日時を広報しており、本日も実施した。18歳以上の村民であれば、約45分の簡単な講義を受けることで修了するので、気軽に受けてほしい。（林野庁）
- 石門の崩落がひどいため何か対策はないか。石門の中の段が歩きにくいいため、改善してほしい。
- 石門は石灰岩地形なので崩落を止めることが難しく、対処するのは厳しい状況である。（林野庁）

＜ネズミ対策について＞

- 姉島のカワラヒワは、ネズミによって繁殖が妨げられているのではないかと。姉島にネズミ対策の順番が回ってこない、カワラヒワの絶滅が心配になる。
- 兄島のネズミ対策が順調に進んでいけば、次は母島列島を対象にする想定であった。しかし、兄島での対策は他の生物への配慮不足等があり、平成27年度に1年間かけて検証を行った。現在は殺鼠剤によるハトへの配慮も考えないといけない状況である。（環境省）

＜アリ対策について＞

- 南崎で行っているアリ対策に用いているベイト剤がネズミ被害に遭っている。その対策として、ベイトステーションによるネズミ駆除を考えており、異論がなければ進めたいと思う。ただし、その駆除方法については、時間とお金がかかる方法はなるべく避けたい。（環境省）
- ベイト剤がネズミに持って行かれないようにネズミのカゴわなに入れるなどしてはいかがか。
- ベイトステーションによる駆除が最もローコストですぐできる方法であると思う。

2. 世界自然遺産に関する村民意向調査（全体結果）（●：村民の意見 ○：行政機関の意見）

- 中高生のアンケート結果から、どのような傾向がわかったのか。
- 将来の小笠原がどうなっていてほしいか、具体的に記述してもらったところ、明るい将来を描いている中高生が多かった印象である。（小笠原村）

- アンケート結果の、特に自由記述欄に書かれた内容を共有するなどしてはいかがか。遺産の価値に関心が低いのはさみしい。アンケート結果を踏まえて村民意見交換会等の実施内容に反映することを期待していた。アウトプットについては、工夫して行ってほしい。

3. 今後の予定

(●：村民の意見　○：行政機関の意見)

<母島のコウモリへの対応について>

- コウモリ対策について、母島ではどのような想定をしているのか。母島でコウモリの生息調査を行っている、これから増えていくと感じている。
- 母島で今すぐにコウモリによる農業被害が出ることはないとしても、2～3年でコウモリが増えれば、被害が出てくることも考えられる。村の農業担当とも打合せを行いながら、そこには対応していかななくてはならない。(小笠原村)

<普及啓発について>

- アノールは父島と母島と兄島以外にいるのか。
- その3島にしかいないため、属島への移動で船に乗る際などには気を付けてほしい。(環境省)
- リーフレットに「メグロ」とあるが、「ハハジマメグロ」ではないのか。どちらも間違っていないならハハジマメグロと表記してほしい。
- かつて、「ムコジマメグロ」が聳島と父島にいたが、絶滅してしまった。これが「メグロ」と呼ばれていた。現在、メグロは母島にしかいない。「ハハジマメグロ」は亜種名であり、「メグロ」は種名である。どちらも間違っていない。
- 今後の作成時に気を付けたい。